

2019年度 特別研究推進費実績報告書

2020年 3月 27日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 外国語学部教授

(氏名) 中野博文

2019年度に交付を受けた特別研究推進費に係る研究実績について、次のとおり報告します。

研究課題名	SDGsを活用したグローバル人材の地元定着を目指した高大接続授業の展開					
実施内容・研究成果の要旨 (概要書を別途添付)	<p>本研究は本学設置者である北九州市が取り組んでいる二つの重点施策について、高大産の連携によって推進する教育を考究したものである。二つとは、SDGsの普及活動と若年層の地元定着である。実施する教育の具体的内容は、高校生に対してSDGsを教材としながら、将来はグローバルに活躍しようという意欲を涵養すること、また就職先としては北九州地域の企業団体を目指すよう勧めることである。当初案では、北九州市における高大産の連携イベント「ゆめ未来ワーク2019」への出展を目指していたが、本研究が始動した4月時点で、同イベントの柱として高校生による「ゆめ未来プレゼン甲子園」が進展していたため、高校参加のプロジェクトが重複することを避けるために目標を変更した。高校生と大学生がともに参加して海外で就業体験をつむインターンシップの企画立案が、かねてから研究代表者に要請されていたので、これを新たな目標に設定し、インターンシップを受け入れてもらえる企業団体探し、高校への説明と参加要請の二つをおこなった。そして、企業団体と高校に理解を求めるため、1) インターンシップの事前研修で使用するSDGsを使った教材開発、2) 高校生の英語能力育成のために本学学生が主体となっておこなうイベント、3) 海外インターンシップを地元高校に周知するためにSDGsの取り組みを英語で議論するイベント、の三つに取り組んだ。このうち、1)と2)は順調に完了し、2)は11月9日と30日に小倉南高等学校で実施した。3)は春休み期間の3月に予定していたが、新型コロナ・ウイルスをめぐりイベントの自粛を受け、中止のやむなきに到った。しかし、SDGsに関心を持ち、高大の海外インターンシップを受け入れてくれる企業団体を複数開拓することができた。また、他大学の聞き取り調査により、新型コロナ・ウイルスの流行を受けた海外インターンシップのリスク管理について考察した。イベント開催は中止に追い込まれたものの、当初の目標であった高大産の連携の枠組みづくりとSDGs普及の教材づくりには一定の成果を上げることができた。</p>					
	合計	使用内訳 (単位:円)				
交付決定額	677,000	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
支出額	677,000	93,210	234,278	164,200	43,177	142,135
執行残額	0					
共同研究者	所属・職名	氏名		役割分担等		
	基盤教育センター教授	浅羽修丈		教育活動の目標設定と達成度評価		
	外国語学部准教授	阿部容子		SDGsに関する企業との連携		